

## 日常医療・在宅医療を支える医療連携（医療介護連携）

## ～在宅医療の課題について～

| 現状・課題  | ご議論いただきたい視点  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多摩市では、在宅診療・往診を実施する診療所は広がりつつあり、また、要介護認定者が在宅医療を利用している現状から、在宅医療が浸透しつつあるといえるのではないかと。</li> <li>○ 在宅医療の需要の推移をみると、2045年には、2018年比で235%となることを見込まれる。</li> <li>○ 診療所・歯科・薬局アンケート結果によれば、在宅医療を実施する上での課題は、「スタッフが不足している」「訪問するための時間が確保できない」「他医療機関や介護事業者等との連携が難しい」が多くなっている。</li> <li>○ また、在宅医療未実施の診療所のアンケートでは、参入しやすくなるサービスとして、「診療体制整備や報酬請求事務の支援」「診診連携グループへの参加や訪問看護との連携」「医療・介護関係者の情報共有を支援する連携ツール等の利用促進」が多く挙げられている。</li> <li>○ 市民アンケートの結果によれば、長期療養や介護が必要となった場合、どこで過ごしたいかとの問いには、「自宅や親類の家」と答える者が約4割と最も多いが、一方、実現が可能かとの問いには、「難しいと思う」との回答が約4割と最も多くなっている。その理由は、「家族や親族の肉体的・精神的な負担」「家族や親族の経済的な負担」「在宅でどのような医療や介護を受けられるか」「急に病状が変わったときの対応への不安」の順に高くなっている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の在宅医療の実施について、連携等の課題があるか。</li> <li>・在宅医療の需要が大幅に増えることを見越して、新たに在宅医療を実施する診療所／歯科医／薬局を増やす取り組みは進んでいるか。</li> <li>・長期療養等の場合、自宅等の希望する場所で医療を受けることを市民が主体的に選択することは難しいが、現状どのようなことができると考えられるか。</li> <li>・医療等専門職によるサービスの提供のほか、地域の関わりや支えを組み込むことができないか。</li> <li>・上記について行政が支援できることがあるか。</li> </ul> |